

あるのならば、それは果たさね
育てていたいた、その御鴻恩に
報謝する責務を負っていると考
えたからである。もし、私に報
謝の一端をも担い得る可能性が

三尊様の 御加護の下に

法主 常磐井 慈祥

十月二十七日、法主傳燈式を
終え、いよいよ高田派の先頭に
立つこととなつた。いや、私は
未だお育てを頂いている、修行
中の身であり、「これから先頭
に立つて門末檀信徒の皆様を導
いて行く」と考えるのは、思
上がりに他ならない。あくまで
も、形式上高田派の頂点に立つ
たのだということを忘れぬよう、
肝に銘じている。私が継承を決
意したのは、仏祖の御加護の下、
門末檀信徒の皆様にここまでお

高田本山だより

ばならぬとの想いである。

幸いにも、来春から一光三尊
佛の御開扉が始まる。これ程、勿
体なく、心強いことはない。三
尊様の御加護に預かれば、この
ような私にも少しは見通しが開
けるかもしれない。また、行く
先の見えない混迷の時代におい

ては、共に三尊様のみもとに集
うことこそが、将来への希望に
つながるのではなかろうか。三
尊様のみもとからお念佛を全世
界に発信してゆくことこそが、
私および私共に与えられた使命
だと、秋の穏やかな日和の下で
考えている。



祖師前にて表白を読み上げる第25世法主殿



前法主殿御自席



千本障子を閉めた御影堂

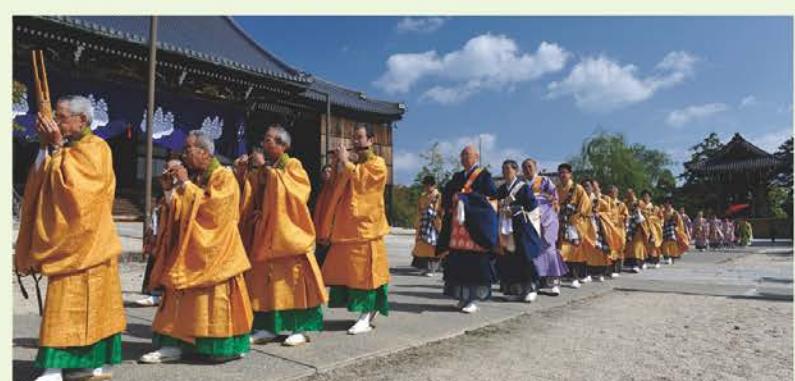
発行所
真宗高田派宗務院
三重県津市一身田町2819
電話 059-232-4171
FAX 059-232-1414
HP www.senjuji.or.jp



発行部数 35,000部



十月二十七日 法主傳燈式が厳かに執り行われました。



傳燈式後の御参廟

傳燈式では御影堂の千本障子
を閉めて行われたため、大間か
らの拝見は出来ませんでしたが、
親鸞聖人の著された『顕淨土真
實教行証文類』を第二十四世鸞
主へ手渡され、み教えの相承が
なされました。その後、改めて
新しい自席に着座され、勤行が
行われました。

前法主殿が今後御昇堂される
ときは、東の第一席に座される
ということでございます。

七高僧シリーズ⑦

道綽禪師（上）

親鸞聖人は、一親鸞」と名のられる前、お師匠様の法然（源空）上人から「縹空」というお名前を授かりました。その「縹空」の「縹」は、道綽禪師の「縹」からいただかれたといわれております。

七高僧のなかで、雲鸞大師、道綽禪師、善導大師の三師は、中国山西省にある玄中寺でつながっておられます。

道綽禪師（五六一～六四五六年）は、曇鸞大師没後二〇年目に生まれられました。自らの修行では仏になることができなかつた道綽禪師

師（上）

修行をしても誰も仏となれない末法の時代であると、お釈迦様自身が説かれておられます。道綽禪師は、この世が末法の時代であることを強く自覚されました。「ただ淨土の一門のみあります」とは道綽禪師が著された『安樂集』のお言葉です。道綽禪師は、仏道には自ら修行をして仏となる聖道門と阿弥陀様のおはたらきで仏となさせていただくなきと、道門の二つがあると系統づけられました。さらには、末法の時代にかぎらず、少數のエリートだけが聖道門で仏になれたとして、も、大多数の衆生が仏になれないのならば、私たちには道がないのと同じです。すべての衆生を煩惱を持つたままでお救いくださることが阿弥陀様の願いです。私たちは、阿弥陀様におまかせをしてお念佛を称えさせていただくなきと、本当に生きていく道、仏となさせていただくなきと、どこにもありません、と道綽禪師は教えてくださつてあります。

親鸞聖人も『正信偈』の
なかで、「道綽決聖道難証
唯明淨土可通入」（道綽禪
師は、聖道門の教えによつ
てさとるのは難しく、淨十
門の教えによつてのみさと
りに至ることができること
を明らかにされました）と
讀えておられます。

道綽禪師が晩年のとき、
まだ若き善導大師がお弟子
様となり、淨土門の道は受
け継がれてさらに深められ
ていきます。

ほんとうのことばに遇う

龍谷大学実践真宗学研究科
特任教授 葛野洋明



私たちの身の回りには、多くのことばがあふれています。テレビやインターネットから流れてくる情報や、ラジオからながれる声も音楽もことばであふれています。

みなさんはどのようなことばが心地よいですか。

きつちりとした標準語で会

ほんとうのことばに遇う

龍谷大学実践真宗学研究科
特任教授 葛野洋明



私たちの身の回りには、多くのことばがあふれています。テレビやインターネットから流れてくる情報や、「才からながれる声も音楽も」とばであふれています。

みなさんはどのようないとばが心地よいですか。

きつちりとした標準語で会話している時よりも、小さな頃から育つてきたことばを聞き・話している時のほうが、なんだかリラックスしていると思いませんか。

きっと、ことばは私の奥の奥のその奥の一番深いところと結びつくものなのでしょうね。だから、慣れ親しんだ、愛情たっぷりなことばに遇うと、心地よさを感じるんでしょう。

大学を出て、僧侶としてデビューしたのは、ロスアンゼルスの別院でした。

リレー法話

仏さまとともに

廣田 隆學

去年の暮れ、お同行のお宅で、亡きお母さんの三回忌に、娘さんが「母が死んで、通夜葬儀、そして中陰のおまいりがあり、七七日の仕上げがおわり百ヶ日、そして初盆、一周忌、なんだか法事に追われる慌しさの中で、いくぶん寂しさが紛れたように思いました。」そして娘さんが続けて話された一言が今でも私の心に残っています。

「去年、母の一周年をすまし、これでようやく一区切りがついたと思ったんですが、なぜだか心にポツカリと穴があいたように感じます。時間がたつにつれて、ふとした拍子に寂しさが込みあげてくるんです。周りの人は『時間が解決してくれるから』と私を励ましてくれるんですが、なかなか難しいものですね」。

私は本当に印象深い一言でした。「別れの悲しみは、時を実感する場といえるでしょ

で、娘さんは「母が死んで、通夜葬儀、そして中陰のおまいりがあり、七七日の仕上げがおわり百ヶ日、そして初盆、一周忌、なんだか法事に追われる慌しさの中で、いくぶん寂しさが紛れたように思いました。」そして娘さんが続けて話された一言が今でも私の心に残っています。

娘さんは「母が死んで、通夜葬儀、そして中陰のおまいりがあり、七七日の仕上げがおわり百ヶ日、そして初盆、一周忌、なんだか法事に追われる慌しさの中で、いくぶん寂しさが紛れたように思いました。」

時間が解決してくれる」
私たちも、よく聞く言葉だと思います、けれども、一方で、時ともにお悲しみが深まるという方も決して少なくないと思います。

時間だけでは、解決できない悲しみ。

私たちには、わが身が抱える悲しみを、法事を通じて教えられることがあるように思います。そして、わが身の悲しみを見つめることは、お釈迦さまの御出家に通じる大切な営みなのです。

お釈迦さまは、かたわらにいる人びとが、年老い、病にかかり、死にゆくがたを見つめられ、人の世の「無常」を覚られたということです。この「老病死」を、ご自身の問題として見つめられ、一瞬、一瞬の内にとどまることなく

英語が出来なくても、長年住めばなんとかなるさ。英語しか話さない門徒さんとも、一緒にお念佛を喜ばせていました。阿弥陀さまは、この私のいのちを涙のままでは終わらせないというかたい誓、大きな願いがある仏さまであります。

（鈴鹿市 青蓮寺住職）

間が解決してくれる」

う。

阿弥陀さまは、私の悲しみを、わが悲しみとして受けとめ、私と共に涙を流してください

しか話さない門徒さんとも、一緒に話さない門徒さんとも、坐っていることができなかつたのです。ことばが通じないところには、安心の居場所がないのです。

とばが届かない、安心して

座っていることができなかつたのです。ことばが通じないところには、安心の居場所がないのです。

しばらく経つて、ひとたび渡米しました。

日本からやつてきた若い僧侶、英語がままなりません。英語しか話さない同世代の門徒さんが、なんとか私にアメリカのことを教えようとして、いろいろと話しをしてく

れます。

日本からやつてきた若い僧

侶、英語がままなりません。

英語しか話さない同世代の門

徒さんが、なんとか私にアメ

リカのことを教えようとして、いろいろと話しをしてく

れます。

日本からやつてきた若い僧

平成
26年

親鸞聖人御正忌報恩講 お七夜案内

1月/9日～16日

おつとめ[勤行後、お説教]

- 7時～ 晨朝
- 10時30分～ 日中
- 14時～ 連夜
(9日のみ12時30分～)
- 16時30分～ 初夜
- 23時～ 後夜(15日のみ)

- 御親教 15日 日中
- 御参廟 16日 9時～



勤行



山門前

特別説教・特別講演

- 御親教復演
15日 鑑学 東海寺住職 新光晴師
- 如来堂特別講演 9時～
13日 輔講 善昌寺住職 金信玄昌師
14日 鑑学 誓元寺住職 栗原廣海師
- 大講堂特別説教 12時30分～
10日から16日まで毎日行います



特別講演



その他の行事



献書展

- 献書展 9日～16日 廊下
- 生花展 10日～15日 休憩所
- 宗旦古流呈茶 9日～15日 有慶堂
10時～15時(ただし、9日は13時～)
- 安樂庵見学 9日 14時～
10日～15日 11時～・14時～
16日 11時～
※見学希望の方は進納所前にお集まりください
- 高田会館お七夜協賛展 各種展示即売 会館ホール

大会・行事等

- 10日(金)12時～ お七夜坊守会
講演 高田短期大学学長 栗原廣海師
- 11日(土)12時～ お七夜婦人連合大会
講演 高田短期大学教授 千草篤昭師
- 13時～ 高田派青年会
研修 法式作法
- 12日(日)13時～ お七夜子ども大会
アトラクション・献書展表彰式
- 13日(月)11時30分～ 責任役員大会
場所 御影堂
- 14時～ 新成人の集い
御影堂記念参詣
- 15日(水)11時30分～ 法主褒賞式
場所 御影堂



宝物館

一光三尊佛お待ち受け記念特別展観

- 開館時間 9日 12時30分～15時
- 10日～15日 10時～15時
- 16日 10時～13時

毎日13時より研究員による宝物解説を行います。
是非、お越し下さい。

ホッ! とするに お七夜マルシェ

in 一身田寺内町

2014.1

11
(土)12
(日)高田本山
専修寺

高田幼稚園

お七夜マルシェ会場

古民家・空き店舗を利用してマルシェを出店
寺内町スタンプラリー
着物の似合町一身田
みんなで来てね!!

雑貨、小物、着物、アンティークetc…
スタンプを全部そろえた方には景品プレゼント
着物でお越しの方には、オリジナルラベルの醤油をプレゼント

高田本山御用達
井筒法衣店
社長 幾田潤
京都市下京区堀川通新花屋町角（西本願寺前）
(〒600-8503)
TELフリーダイヤル 0120-075-720
FAXフリーダイヤル 0120-075-490

緑と共に80年
三重県知事免許認可
(一級造園技能士) 造園・庭園管理

山本造園

代表 山本 進一郎

津市栗真小川町 869-77
TEL 059-232-7453
FAX 059-232-7453

高田本山御用達
三重県仏教会御推薦
石碑
記念碑
燈籠
高級御影石専門店
御影石材株
(石に御用の方は) イシニヨヨ
0120-142540
本店 津市広明町(彰晃寺門前)
059-224-1700(代)

お墓

寺標

墓地移転

靈園開発造成

高田本山御用達
全国優良石材店、認定店

創業110余年

ISHISEN STONES
ストーンズ 石仙
(旧(有)山本石材店)

0120-67-4114
四日市市近鉄阿倉川駅前 059-331-4114

ご和讃のお話

高山 信雄

五濁悪世のわれらこそ
金剛の信心ばかりにて
ながく生死をすてはてて
自然の淨土にいたるなれ

(淨土高僧和讃 善導禪師 第十五首)

私達が当たり前に過ごしている現代。このご和讃を拝読して、親鸞聖人の生きられた時代はまだしも、まさか私達の時代が五濁にさらされている自覚など全くないのでないでしようか。

五濁悪世。(①劫濁、②見濁、③煩惱濁、④衆生濁、⑤命濁)とは、

①決して現代が心の底から悪い考えが横行し、③貪りのこころや怒り、愚かな行いが、常に意志とは別に人それぞれの胸の内にはびこっています。④さらに互

もう一度現代を振り返つてみますと、様々な出来事や事件が起きています。悲しいことや苦しいこと、悩むことが多すぎて、とても喜びに溢れた幸せな時代とは言えません。さらに、このようなことに慣れてしまい、共に悲しみ、苦しむ感

り、私達人間が人間らしくなくなっているのではないでしょうか。

この様子こそ、まさしく「五濁悪世」。そんなことはつゆ知らず、さらに私達は自身の死を遠ざけ、畏れ、生きることに執着しているわけです。

そんな私達に、もう救われる道は閉ざされたようにも思われますが、仏様はそんな時代に生きる私達であるからこそ、「必ず救うぞ」とお約束して下さいました。そして、私達は、仏様のお約束のはたらきでしか頂戴することのない本当

の安心をいただき、生と死は別のものではなく、死があるからこそ今を生き抜くことの感動をお教え下さいます。そうする中で、仏様は私達を温かく包み込みながら、本当に安心することができるお淨土へお導き下さるのです。

仏様のおこころにより、いに言葉や態度で傷付けること、傷付けられることもしばしばあり、⑤その行く末には大切なのちすら軽んじられる時代と言うことであります。

(名古屋市 久遠寺衆徒)

これからの中山諸法会

詳細は四、五頁に掲載しています。

◆御正忌報恩講(お七夜) 一月九日～十六日

◆除夜の鐘
十二月三十一日 夜十一時～十二時半
どなたでも鐘を撞いていただけます。暖かい格好をしてお越し下さい。

◆修正会 一月一日～三日
除夜会 夜十二時より 御影堂にて
晨朝 午前七時より(元旦のみ午前六時三十分より)
御参廟 元旦のみ晨朝後

御本山御用達

鍵長法衣仏具店

京都市下京区油小路正面東入(中央局区内)
電話 (075)371-0854・8181～2番
FAX (075)344-2701番
振替口座・01070-3-972番 郵便番号600-8344



仏壇・仏具
ぬし与
ホーオーが目印!

六代目 (株)ぬし与仏壇店

桑名本店・四日市店・蟹江店・桑名メモリアルパーク

特集

一光三尊佛御開扉 十七年に一度のご勝縁



卓上カレンダー
御開扉期間にご利用いただける
卓上カレンダーです。平成26年3月
から御帰山の平成28年4月までが
2ヶ月ずつ14枚のカレンダーです。使
用後は写真部分を切り抜き絵ハガ
キとして利用していただけます。



◆ 卓上カレンダー ◆

御懇志のお願い

一光三尊佛の御開扉に合わせ
寺院単位で御懇志をお願いし
ております。

高田派同行にとって大切な
法会でありますのでどうか趣
旨を御理解いただきよろしく
お願い申し上げます。
なお、懇志五千円以上の方に
お扱い(記念品)をお渡しさせ
ていただきます。

4月3日～5日の慶讃法会は、毎日午前7時
の晨朝勤行から午後3時半の夕事勤行までです。
檀信徒のみなさまごぞつてのご参詣をお待ちいた
しております。

◆ 御開扉

平成26年4月3日～11日まで

◆ 一光三尊佛慶讃法会

4月3日～5日

◆ 晨朝・説教

7時 晨朝・説教

◆ 庭儀式(稚児練り)4日・5日のみ

10時 庭儀式(稚児練り)4日・5日のみ

◆ 日中法会・お言葉・説教

11時 日中法会・お言葉・説教

◆ 大講堂説教

12時半 大講堂説教

◆ 特別講演

13時半 特別講演

◆ 鑑学

3日 新光晴 師

◆ 曹洞宗尼僧

4日 青山俊董 師

◆ 善光寺寺務総長

5日 若麻績敏隆 師

◆ 宝物館特別展観

6日 3日～5日

◆ 宗旦古流呈茶

7日 10時～15時

◆ 安楽庵

8日 ※雨天の場合は有慶堂

◆ 千部法会

9日 6日～11日

◆ 没者追弔法会を攝取

10日 (9日、10日は十万人講法会、11日は戦

◆ 日中法会・説教

11日 (11日のみ日中法会のお説教終了後に内

拝を行います。御影堂中陣において一光
三尊佛を間近に礼拝いたくだくことがで
きます。

本山御開扉日程詳細

御開扉中の団参参加者募集

募集する法会

- ◎4月3日～5日 午前11時からの日中法会
- ◎4月6日～11日 午前11時半からの日中法会

一座につき定員は500人で先着順に受付をします。

御影堂内に団参席を設けお座りいただきます。

申込は専用の書式が高田本山ホームページ上にあります
のでダウンロードしてお申し込み下さい。

稚児練りお稚児さん募集

一光三尊佛の庭儀式に参加されるお稚児さんを
募集しています。稚児練りは4月4日(金)、5日(土)
の2日間で両日とも午前10時に本山を出発し、一身
田町を練ったあと、一光三尊佛に参拝します。

◎募集人員 2日間とも300名

◎参加料 稚児1名につき5,000円

◎申込方法 専用の申込書に記入の上、参加料を添えて
お手継ぎの寺院もしくは一光三尊佛御開扉
事務所までお申し込み下さい。

問い合わせ先

真宗高田派本山 一光三尊佛御開扉事務所 ☎ 514-0114 津市一身田町2819 TEL 059-232-4177

宗旦古流呈茶

お七夜 本山内有慶堂にて

平成二十六年一月九日(木)～十五日(水)
 午前十時～午後三時
 (九日のみ午後二時から)

○呈茶券(五百円)を宗務院進納所・総合案内所で
 お求め下さい。

寺院名

平成26年 参加無料

当日受付、事前申込みの必要はありません

お七夜子ども大会

日時：1月12日(日曜日)
午後1時より

場所：宗務院2階
受付：当日12時より受付開始
内容：式典(子どもたちのお参り)
みんなでお歌
アトラクション
献書展表彰

新成人の集い

日時：1月13日(月・祝)
午後2時より

場所：宗務院2階
受付：当日12時より受付開始
内容：御影堂へ参詣
記念撮影
昔ながらのお雰囲をご用意しています。

真宗高田派本山 専修寺
 三重県津市一身田町2819 TEL 059-232-4171

<http://www.senjuji.or.jp/>

高田本山

検索



(『三尊さまむかしばなし』より掲載)

三尊さまの代わりにおはなし

わが子の代参

志郡藤方村の円光寺の門徒に長七という人がいました。小さい時から馬の鞍を作ることを職業としていましたので、世間では「鞍つみの長七」と言われていましたが、この四、五年は半身不随となつて仕事もできず、息子の長介に養われていました。もともと信心深い上に、仕事ができないので、朝夕ただお念佛を唱えて寝ていましたが、三尊さまのご開扉法会のあることを聞き、「ああ、この身体が昔のようだつたらなア、すぐにもお参りして拝観したいものを。」と一人でくやしい思いをしていました。馬や駕籠に乗つてお参りするのも気がねで、長介も心を使うだろうと思う

一志郡藤方村の円光寺の門徒に長七という人がいました。小さい時から馬の鞍を作ることを職業としていましたので、世間では「鞍つみの長七」と言われていましたが、この四、五年は半身不随となつて仕事もできず、息子の長介に養われていました。もともと信心深い上に、仕事ができないので、朝夕ただお念佛を唱えて寝ていましたが、三尊さまのご開扉法会のあることを聞き、「ああ、この身体が昔のようだつたらなア、すぐにもお参りして拝観したいものを。」と一人でくやしい思いをしていました。馬や駕籠に乗つてお参りするのも気がねで、長介も心を使うだろうと思う

長七は三尊さまをはつきりと拝んだのです。しかし、これが高田のご本尊である二尊さまかどうかわかりませんのでだれにも言わずにおきました。さて、翌日の十四日、長介は早朝から参詣に出て、午後二時ごろに家へ戻つて来ました。息子が帰るなり長七は、「長介、しばらく何も言わずに聞いておくれ。実は、昨夜の夢に三尊さまが現れてくださいましたが、これは私の妄想か、あるいは三尊さまの『示現』か、先ず私が夢にあらわれ給うたお姿を話すから、そのあとでお前の拝見して来たお姿を聞かせておくれ。」と、夢に見たお姿を語り始めたのです。

中尊の阿弥陀さまと脇侍の觀音・勢至のご身長から印相、光背の様子、

と、念願の果たせないのがどうにも残念でなりません。「せめて明日は長介を代りに参らせよう。自分の思いは仏さまがよくご存じなのだから」と、十三日の夜、長介に、明日は朝早く出立して、よくよく拝見して来るようになると、分に言い聞かせました。その夜の夢に、長七は三尊さまをはつきりと拝んだのです。しかし、これが高田のご本尊である二尊さまかどうかわかりませんので父も子も、しばらくはことばもな

く、ただ涙にむせぶばかりでした。これほどのご示現にあざかるからは、もう骨を碎いてもなお足りぬ、は駕籠を頼んで父子ともに参詣し、三尊さまの前にひざまづいて涙にくる二尊さまかどうかわかりませんので何の気がねがいろいろぞと、翌十五日は駕籠を頼んで父子ともに参詣し、わけを聞いて感嘆しない者はなかつたといいます。

台座のあり様など、こまごまと話す父長七のことばは、何と、自分が今参詣して來た高田のご本尊さまと一分の違いもありませんか。